

## 会議録

会議の名称	小中学校通学区域見直し等に関する谷戸町・泉町・住吉町・ひばりが丘地域協議会（第3回）
開催日時	平成22年10月7日（木曜日） 午前9時30分から午前11時10分まで
開催場所	西東京市立泉小学校 3階ホール
出席者	委員：屋宮茂穂、清水理恵、加瀬裕子、西潟克夫、神山繁樹、青木由美、蔵方由紀、河野美晴、池田めぐみ、上田悟司、八巻真実、瀬瀬由美子、熊澤義夫、齋藤雅子、齋藤勝利、清水則之、門馬晶子、嶋田実穂、楠本善之助、羽田八三九、西嶋剛昭、西岡一美、米田明未、住田佳子、大野雅生、田代裕子、百瀬英子、佐藤裕子、二谷保夫 事務局：櫻井勉（教育企画課長）、清水達美（教育企画課企画調整係長）、後藤幸男（教育企画課学務係長）、相澤潤子（教育企画課企画調整係主任）、山岡昇（教育企画課学務係主任）
議題	1 開会 2 会議録の確認 3 資料説明 4 意見・質問 5 次回の開催日程について 6 閉会
会議資料の名称	資料1 指定校変更特例措置廃止後の就学人口推計 資料2 教室使用状況一覧表 資料3 意見・質問等シートの集計結果
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>議題1 開会</p> <p>議題2 会議録の確認 第2回の会議録は委員の承認が得られたものとし、（案）を外して正式な会議録とする。</p> <p>議題3 資料説明（事務局から） 資料1から3の説明</p> <p>議題4 意見・質問 ○会長： 前回同様、グループに分かれて資料の検証を行い、発表する形をとりたいが、それで良いか。</p>	

○委員：

この会議は特例措置の解消のみと、市が合併した事により通学区域を変更することのどちらに重点を置いて検討するのか確認したい。資料によれば特例措置を解消すると教室数も足り、良いように見えるが、通いやすさや近距離の学校に通っている子どもがいるという現状を踏まえた新通学区域の設定を目指しているのか、確認した上で話し合いをしたい。

○会長：

第1回の会議録を参照いただき、この会の趣旨について再度確認する。大幅な通学区域の見直しの話の際に中原小の建替の話もあり、現時点で建替の有無は不明である。現在とは違う場所に建替した場合、大幅な通学区域の見直しに入ると思うので、この会では中原小学校の建替に関する話題は取り上げず、平成24年度からの通学区域変更に関して検討したいとお話した。現状の子どもの流れを検討しながら特例措置の解消を目指していかなければ会が進まないの、そのようにお願いしたい。以上のことから特例措置の解消に重点を置いて考えていただきたい。

(3グループに分かれて討議した後、再開し発表)

○第1グループ：

- ・資料で細かいシミュレーションが示されたので、判断しやすかった。
- ・指定校変更特例措置は廃止する。事務局提案どおりの線引きで行っていただきたい。理由は中原小を建替える場合、通学区域を改めて決めることも考えられることと、親にとっては兄弟が別々の学校に行くという心配があったが、それは指定校変更で対応でき、シミュレーションにも兄弟の人数が考慮されていることがわかったためである。

○第2グループ：

- ・指定校変更特例措置を廃止することによって、多くの問題が解決するのではないかという結論になった。ただし、兄弟関係により指定校変更の手続きをすれば同じ学校に行けるという制度はこのまま認めてもらいたい。
- ・小学校低学年の事を考えると通学には距離や安全面を考慮すべきである。一部の通学区域は旧田無市と旧保谷市が合併したことによる問題点があり、今後の課題となってくるのではないか。
- ・その他、小学校と中学校を入れ替えてはどうか、大きな道路ができる事によって通学区域を見直す必要も出てくるのではないか、などの意見があった。

○第3グループ：

指定校変更特例措置という制度があることで、学校にとって様々な支障があるので廃止しようという意見で一致した。また、どうすればスムーズに廃止できるのか話し合う必要があるという意見が出た。

○会長：

指定校変更特例措置は廃止するという意見で一致しているようだ。また、兄弟関係に

についての心配が出されたが、現在、指定校変更制度の利用により同じ学校へ通学することが認められ、制度が継続されることの確認がとれているので心配は解消される。小学校低学年の事を考えると通学路について安全面などの課題がなお残り、いずれ見直す必要が出てくるだろうという意見が出された。今回出されたシミュレーションは、この話し合いで検証が済んだものとするが、良いか。

○副会長：

このシミュレーションを見て、どの学校でも人数がプラスになってしまうという問題が出ないことがわかり、安心した。これはあくまでも今の通学区域を継続した場合のものであるが、もし、中原小の通学区域の飛び出した部分（谷戸町二丁目のコスモひばりが丘や戸建部分）を本来の谷戸小の通学区域に戻したら、谷戸小に児童数プラスの問題が出てしまうのではと気になっている。

○事務局：

今回は前回会議を受けて、単に指定校変更特例措置をなくした場合のシミュレーションとして資料を作成した。次回、中原小の通学区域の飛び出した部分を谷戸小に戻したらどうということが起こるのかの資料を作成する。

○委員：

中原小の通学区域の飛び出した部分の通学区域を田無二中からひばり中にした場合も作成していただきたい。

○委員：

次回のシミュレーションで、中原小の通学区域の飛び出した部分を谷戸小に戻したら教室数が足りなくなるのか。

○副会長：

それも含めて次回の資料で説明してもらおう。

○委員：

次回の資料では1クラス何人となるのかも表示してもらいたい。

○会長：

1学級40人上限であることが決まっていて、それでクラス数を設定している。

○委員：

1つのクラスが40人ぎりぎりなのか、余裕があるのか一目でわかるようにしてほしい。

○副会長：

各学年の総人数をクラス数で割ってもらい、各自で確認いただきたい。

○会長：

中原小の通学区域の飛び出した部分を谷戸小の通学区域とした場合と、中原小の通学区域の飛び出した部分の通学区域を田無二中からひばり中にした場合の資料請求があった。次回までにこの2種類について作成していただきたい。

○委員：

今回のシミュレーションとは通学区域を旧田無・旧保谷に戻すということではなく、グランジオ武蔵野とヌーベルヴィラージュが谷戸小学校、コスモひばりが丘と戸建部分が中原小の指定校となるということで良いか。

○事務局：

今回は現状の通学区域としているグランジオ武蔵野とヌーベルヴィラージュが谷戸小学校、コスモひばりが丘と戸建部分が中原小の指定校となるものを作った。副会長が言うのは中原小の通学区域の飛び出した部分を全て谷戸小に戻した場合のものである。

○委員：

もし中原小の通学区域の飛び出した部分を全て谷戸小の通学区域にした場合、児童数増により教室数が不足することの共通認識を持とうという会長・副会長の考えがわかったので、資料を作っていたきたい。

議題5 次回の開催日程

○会長：

今回は10月28日（木曜日）午後2時00分から谷戸第二小学校で開催する。

議題6 閉会